

東京地本

2019春のたたかい総決起集会

3月1日18時45分～ 北とびあ・さくらホールにて開催!



2019年春のたたかいは
全組合員の団結力で
たたかい抜くことを確認!

781名の仲間が結集!!

集会スローガン

1. 19春闘勝利! 3年連続の「所定昇給額を算出基礎にしない」ベアの実現をめざし、全組合員でたたかい抜こう!
1. 労使合意なき施策推進を許さず、安全・健康・ゆとり・働きがいを担保にした労働条件と、風通しの良い職場環境を実現しよう!
1. 今こそ団結! 会社による差別と不当労働行為を根絶し、組合員との信頼関係と温もりのある強固な組織をめざし「JR 東労組の再構築」を創りだそう!

集会アピール

JR東労組東京地本は、北とびあ・さくらホールにて「2019春のたたかい総決起集会」を開催し、19春闘に勝利し、安心して働ける職場を全組合員のたたかいで切り拓いていくことを確認した。

昨年以降、春闘情勢が大きく変わろうとしている。政府の賃上げ要請のトーンが下がり、過去5年の官制春闘から労使議論の春闘に変わっているが、経団連は「ベアは選択肢の一つ」としながらも「定期昇給などを含め総合的な処遇改善で柔軟に対応すべきだ」としてベアを否定し、破壊する意思を表明した。

一方で連合は、自動車総連がベア要求額を掲げず労組ごとに月給額を要求するなど、内部で足並みがそろっていない。春闘本来の姿である「統一要求・統一闘争」から「個別の要求・個別闘争」へと変化していることから春闘自体が終焉を迎えようとしている。さらに、格差是正の水準追求に力点を置いていることから、連合自身も将来的にはベアをめざさない方向性に向かいつつある。

私たちを取り巻く環境と将来を考えれば、今春闘でのベースアップは例年以上に重要となっている。今年10月に消費税が増税し、2019年度の物価は1.2%程度上昇の見込みだ。消費増税と物価上昇という二重の負担が押し掛かってくる。加えて今年4月からは社会保障の見直しが始まる。実質賃金が低下する中、2025年から2040年にかけて現役世代急減により、若い世代への負担がさらに増えるのは明らかだ。賃金は労働力の再生産費であり、ベアは物価上昇分に対する生活維持向上分であって、それは誰にも等しくある。だからこそ格差のない賃上げが必要だ。18春闘の到達点に踏まえ、19春闘では一律6000円の賃上げを、3年連続の「所定昇給額を算出基礎にしない」ベースアップで実現させるために職場からのたたかいを更に推し進めていく。

「変革2027」により様々な効率化施策がスピード感重視で推し進められている。その内容も業務員勤務制度見直し後のダイヤ改正を見れば明らかな通り、全体で100名の要員が削減され、乗務距離が増加し、長時間労働で睡眠時間が削られ、従来よりも労働強化された超効率化施策となっている。生産性が向上しても賃金が上がらなければ、実質的な賃下げとなる。18春闘の議論に踏まえ、施策努力分に見合う賃上げが必要だ。正社員・契約社員・エール社員はもとより、グループ会社の賃上げと待遇改善のたたかいを共に担い、鉄道とバスに相応しい賃金を実現させよう。労使合意なき施策推進を許さず、実施された施策は検証し、問題は社会にも発信して、安全と輸送サービスの品質向上を確保し、労働条件と労働環境の改善をめざそう!

JR東日本会社やグループ会社が行っている人権侵害、試験・昇進・異動に関する差別、利益誘導による脱退強要・不当労働行為が今も公然と行われている。私たちは不当労働行為の根絶をめざし、秋のたたかいで1358件のメモを積み上げ、不当労働行為の事実を明らかにした。労働組合を敵視し、組合員を差別する姿勢が職場を暗くし、現場からの耳の痛い意見を封殺し、上意下達の職場風土をつくりあげようとしている。さらに、社員に対し「心の生産性」を要求し、JR東日本のために生きることまで求めているのだ。福知山線事故の教訓は、人間性が失われた職場の行き着く先を示している。自己利益を優先する職場風土では、東日本大震災のように「災害から命を守る主体性」は醸成されない。このような事実が明らかになれば、社会からの信用を失い、企業の崩壊は免れない。だからこそ、私たちは組合員の声に基づき職場からのたたかいをつくり出してきた。不正を許さず、正義と正論を貫き、しなやかに、したたかに、安心して働ける職場を取り戻し、JR東日本の健全な未来をつくり出そう。そして、職場を原点とした運動を推し進め、JR東労組を再構築するために全組合員が超えよう!

以上、アピールする!

2019年3月1日
東日本旅客鉄道労働組合東京地本
2019春のたたかい総決起集会